

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	地域の中での生活の継続が大切である事を意識し、理念がケアに反映されているか振り返りができるように、スタッフルームと玄関に掲げ実践している。	職員に意識付けるために、カンファレンスの中で理念について触れている。また、新人教育の中で、会社理念と事業理念を伝えている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の保育園や小学校の行事を慰問交流している。地域の方のボランティアも受け入れており、行き来により顔なじみの関係が出来ている。	地域の保育園児が行事の招待状を持って慰問に来たり、地元小学校の行事に参加したり、地元中学校の職場体験を受け入れたりと、町内の人が紹介してくれたボランティアが来て踊りを披露する等、地域と密接な関係が出来ている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域のボランティアの方の受け入れや、ご近所との関わりの中でホームの様子や認知症の方の支援の方法について伝えている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	毎回、町内会長はじめ、地域住民の方やご家族の多くの参加をいただき、親身になって考えて下さっている。ホームからの一方的な報告でなく意見交換も出来ている。	2ヶ月に一回、定期的に行われている。介護保険制度について話し合ったり、地域住民から緊急時の対策や火災等についての意見もある。意見に対しては、次回の開催までに答えを用意している。毎回、家族全員に参加の呼びかけをしており、新しい利用者の家族が前向きに来ている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市の担当者に不明点などを訊ねたり、窓口手続きの際には運営推進会議の案内をさせてもらっている。	不明な点や分からない事が有れば、市の担当者を訪ねて行ったり、電話で確認している。また、福祉事務所の担当者が様子を見に来ている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施設を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	日頃のケアの中でも、身体拘束の具体的な事例をあげて話し合い、職員個々の意識の向上につながるよう努めている。	身体拘束委員会を中心にその都度、カンファレンスを行い、拘束ゼロを実践している。定期的な内部研修の他に、管理職以上が受ける外部研修にも積極的に参加している。外部で勉強した事は職員全員に伝えている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることのないよう注意を払い、防止に努めている	不適切なケアについても防止策や対応方法などをカンファレンスで検討して、見逃されていることがないよう注意をはらっている。		

8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在、制度を利用されている利用者がおられるため、機会があれば職員に説明を行っている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	時間をかけて丁寧に説明をするように心がけている。料金、リスク面や看取りへの対応についても納得を得られるよう説明を行い、利用者やご家族の不安や疑問点を取り払うように努めている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者や家族の思いを遠慮なく相談して頂けるような雰囲気づくりを心がけて、提案されたご意見はカンファレンスなどで話し合い反映させている。	普段から利用者や家族と信頼関係を作っている。家族が訪問した際、担当職員が普段の様子を伝え、意見や要望を聞いている。意見等あれば、カンファレンスの中で話し合っている。良い事に関しては、家族にどんどん伝えている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	意見をあまり言わない職員には配慮し、こちらから機会を作り問いかけるようにしている。月に1度のカンファレンスでは職員の要望や意見を聞くようにしている。	日頃から職員と密にコミュニケーションを取るよう努めている。ケアの相談やプライベートな事、人間関係に至るまで、ホーム長が気さくに対応している。代表や部長もよく事業所に来ては、職員と気軽に会話している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	何でも話しやすい環境を心がけ、個々の努力や頑張りを認め、長所を発揮出来、前向きに働ける職場環境に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員の経験や立場に応じてスキルアップのため事業所内外の研修を提供して受講を勧めている。研修報告書で研修内容を共有できるようにしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	法人内のグループホームの訪問や交流の中で、自ホームの振り返り、見直しに繋げている。外部研修で同業者との交流を通して、情報交換を行いサービスの質の向上に努めている。		

Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	事前面談で生活状態や、本人の思いや困っていることを把握し、安心して受け入れて頂けるような関係づくりに努めている。	
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	困っていることや不安なこと、これまでの経緯やご家族の求められているものを理解し、安心感を得られるような支援を心がけている。	
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人やご家族の思い、必要としている支援を把握しホームで出来る改善に向けた支援の提案をしている。	
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	生活の中で、楽しい時、寂しい時、不安な時など共感し、感謝の気持ちや励ましあったり、共に支えあえる関係づくりを心がけている。	
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族の思いに寄り添いながら、日々の暮らしの出来事や気づきの情報を共有して、ご本人を支えるために、ご家族の方と同じ思いで支援していることを伝えている。	
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご本人がこれまでに築いてきたなじみの人や場所の関係が継続的出来るよう、手紙や電話での連絡を取り持つなどの支援をしている。	デイサービスに通っていた頃の友達や元職場の先輩が来訪している。利用者全員の前で詩吟を披露することもある。また、年賀状や手紙を家族や友人に向けて出す際のサポートに努めている。そして、かかりつけ医の継続支援に取り組んでいる。
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	気の合う利用者と一緒に過ごすよう、時には職員が間に入るように配慮している。食事やお茶の時間には職員も一緒にテーブルにつき、多くの会話をもつようになっている。	

22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	住み替えが必要となった場合でも、ケアプラン、支援状況等をお伝えするとともに情報交換を行い、これまでの暮らしの持続性が損なわれないようにしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々のかかわりの中で、言葉や表情などから思いや暮らし方の希望の把握に努めている。また、ご家族の方より助言や情報もいただきながらご本人本位に検討している。	普段の何気ない会話の中から、また、言葉の端々から、利用者の思いや希望を把握をしている。また、会話が難しい人は、日常的なケアサービスの中での表情や言葉から汲み取っている。職員には日頃から、自分に置き換えて考えるように指導している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご本人の今までの暮らしぶりや、地域の中でどのような関わりをしてきたのか等把握に努め、自分らしく安心して生活して頂けるように努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	ご本人の生活歴や個性なども含め有する力を見極め、出来ない事より出来る事に注目して自信に繋がるような支援を心がけている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人の視点に立って、その人らしく暮らしていただくために、ご本人やご家族の思いや、要望をカンファレンスで話し合い介護計画を作成している。	月一回のケアカンファレンスの中で、各担当者と計画作成者でプランを見直し、その都度、気づきがあれば反映している。また、面会時に家族の要望を聞き、主治医と相談しながら身体的な意見もプランに取り入れている。更新月には、アセスメントの整理やモニタリングを実施している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個人ファイルを用意して、食事・水分量・排泄等身体的状況や、日々の暮らしの様子を記載して、気づきや状況変化を把握している。記録を活かし常に情報を共有できるようにしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご本人や家族の状況に応じて、医療機関への受診、通院、送迎等必要な支援は予定外であっても柔軟に対応できるよう取り組んでいる。		

29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	利用者が安心した地域での暮らしを続けられるよう、運営推進会議で地域包括支援センターの職員の方や、町内会長などと支援に関する情報交換を行っている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご本人やご家族の希望するかかりつけ医となっている。協力医療機関ともいつでも連絡、相談をさせて頂きながら適切な医療を受けられるよう支援している。	かかりつけ医の継続支援について、利用者や家族の希望を最優先している。週4日で協力医の訪問もあり、24時間体制でサポートしている。歯科往診も、その都度行われている。また、年1回、口腔ケアの健診も行っている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日々の関わりの中で利用者の身体状況の変化を早期に発見し、ただちに看護職に報告・相談している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時にはご本人の支援方法に関する情報を医療機関に提供し、職員が定期的に見舞うようにしている。また、ご家族とも病状等の情報交換をしながら、入院によるダメージを最小限にし、速やかな退院支援に結び付けるようにしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ご本人やご家族の意向をふまえて、医師、職員が連携を取りながら、安心出来る希望に沿った最期を迎えられるように取り組んでいる。職員もカンファレンスで随時方向性を確認しながら、支援を行っている。	利用開始前に、家族や利用者に見取りの指針を説明している。終末期医療が必要な場合は、主治医の判断のもと、家族に説明し、同意書を作成している。内部研修や、ホーム長自ら外部研修で得た知識を職員全員で共有している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	夜勤時の緊急時対応や、事故発生時の対応について、看護職の指導のもと、慌てず適切な行動がとれるように勉強会を実施している。夜間の対応、連絡方法についてもマニュアル化している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	全職員が災害時に、利用者に安全に避難していただけるように訓練を重ねている。地域の方や近所の方にも防災訓練に参加して頂き、反省点については次回の訓練に生かせるように取り組んでいる。	年2回、近所や地域の方が参加して、避難訓練(地震及び火災想定)を行っている。その内1回は消防署が立ち会っている。また、年2回、小さな訓練(各階ごと)を繰り返し練習している。	備蓄食料等の整理及び確認、水害時を想定した避難訓練の実施に期待します。

IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	ご本人の気持ちを尊重し、さりげないケアを心がけている。個人情報等の守秘義務についても勉強会の機会等で意識の統一を図る様にしている。	行動を制限する言葉やキツイ言葉、赤ちゃん言葉等、日頃から職員に注意を促している。また、排泄時には、利用者本人に抵抗のない言葉かけや対応に努めている。利用者を尊重する気持ちが薄れない様に、小さな事でも注意している。
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者に合わせた声掛けを行い、ご本人の意思や思いを話しやすい雰囲気作りを大切にして、自己決定を支援している。	
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	出来るだけ、一人ひとりのペースに合わせた対応を心がけ、職員のスケジュールでなくその日の利用者の気分や希望にそって支援できる様にしている。	
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	衣服はご本人の意思を尊重して選んでいただいております。お気に入りの衣服やこだわりを大切に、おしゃれを楽しめるように配慮している。	
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	職員と一緒に手作りの食事を囲み、時には畑の新鮮な野菜を味わいながら、野菜嫌いな利用者も食べられたりと食事を楽しみにされている。月に1回、利用者中心に昼食クッキングの日があり、生き生きとした姿が見られている。	月1回、手作りメニューの日を設けており、手伝いをする利用者もいる。業者に頼んだ食材に、事業所の庭で採れた季節の野菜を加えている。職員は利用者と一緒に食事を楽しみながら、個々のペースに合わせて支援している。
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養バランスを考え、個々に合った食事形態で、1日の必要量が確保できるよう支援している。	
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、個々に合わせた方法で口腔ケアの誘導をさせて頂き、口腔内の清潔が保たれるよう支援している。口腔内に問題が生じた時には、歯科往診にて相談・治療を行っている。	

43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	利用者個々の排泄パターンやサインを全職員が把握し、羞恥心への配慮をしながらトイレでの排泄を大切にしている。	職員は各利用者の排泄パターンを把握し、出来るだけトイレでの排泄を心がけている。失敗が増え、失禁が増えた利用者が、薬の調整や時間を固定して誘導することで、自立に至った例もある。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	飲食物の工夫や、廊下やテラスの歩行やリハビリ体操等で身体を動かすことの大切さも意識している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	その日の体調や気分を重視しながら、職員と1対1でかかわれるゆったりとした楽しい時間になるように配慮している。	2～3日に1回入浴する利用者や毎日入浴を希望する利用者があり、それぞれの希望や要望に合わせて対応している。入浴を拒否する利用者には好きな事を行ってもらい、その延長で入浴してもらったり、気の合う職員が対応したり、時間を空けたりしながら対応している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	ひとりひとりの生活リズムを整え午睡の必要な方や、就寝時間の遅い方など個々に応じた対応を行い、眠れない利用者については、ご本人の状態や環境面等を総合的に考えて、調整に努めている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の処方、効能の説明書を個々のファイルに保管し、全職員が分かるように服薬の支援に努めている。また、症状の変化の確認を行い、医師に報告している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	ご本人の楽しみや、得意なことで力を発揮して頂き、その方らしい姿が見られる場面作りを心がけている。工作や料理や生け花、畑仕事など経験や知恵を発揮していただけるよう支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	嗜好品の買い物に近所のスーパーまで出かけたり、気分転換に園庭に散歩に出たり支援を行っているが、出来るだけ特定の入居者に偏らないよう配慮している。	少人数で(車で)外出したり、天気の良い日にはテラスに出て、洗濯物を干したり・取り込んだりしている。また、近所で猫を飼っている家や鈴虫を飼っている家を歩いて回ったり、広い駐車場や庭の周囲を散歩している。	

50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご家族の協力のもと、お財布を持っている利用者もおり、希望に応じて買い物に行って支払いをして頂いたり、パン屋さんの訪問販売で購入をして頂いたり社会性の維持につなげている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	いつでも気兼ねなく電話をして頂けるよう、希望時には使用を支援している。手紙のやり取りをされている方もおられ、年賀状をだしていただく支援もしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	家庭的な広さのホールでゆったりと落ち着いた空間で、ホールや玄関には園庭の季節の花を生けて楽しんで頂けるように配慮している。トイレやゴミ等の不快な匂いに気を配っている。	広くゆったりとしたホールには、家族が持ってきた花や庭で採れた季節の花が生けられ、ベランダ越しの畑には、トマトやナス、ピーマン等が植えてある。2階には吹き抜けの天井があり、解放感に満ちている。また、各階の廊下には夏を感じさせる作品が掲示しており、季節感に満ちている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファや置き畳、椅子を配置して気分によって1人でくつろげるスペースを確保している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時にはご本人の写真や思い出の品を持ち込まれ、安心感のある馴染みの環境となるようにご家族にも協力をお願いしている。	居室入口には、誕生月の花が描かれた木製のプレートと居室担当職員の顔写真付き木製プレートが取り付けられている。室内には、自慢の家族や孫の写真、観葉植物や各行事で撮影した物等が飾られ、自分好みの生活スペースに仕上げている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ご自分の力で安全に移動ができるようにホールの席の配置を考えたり、身体状況に合わせた環境作りを行っている。		

